

# 病院長 新年挨拶



明けましておめでとうございます。地域住民の皆様、病院職員、職員のご家族の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

本年も地域医療の充実と、医療介護福祉連携の向上のため力を尽くしてまいりたいと存じます。

昨年の当院の活動ですが、今後10年内におこる世界で類のない高齢化時代を乗り切るため、病床の整備を続けております。従来の病院では高齢者のかたが急性肺炎などで治療後、ほとんどの生活機能

が低下した状態で退院を余儀なくされます。つまり足腰が弱くなったり、飲み込みが悪化したりというようなことが起こり、在宅に戻っても、そのような要因で再入院するケースがあり、また厚別区では高齢化がすすみ、今後急増することが予想されます。

その対策として、地域包括ケア病棟を開設いたしましたので、ご紹介いたします。病床の特徴ですが、治療と同時にリハビリテーションが行われ、同時に在宅へ戻るにあたっての情報(たとえば、介護力、住環境、経済力など)を基に、問題点を洗い出し、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、ケアマネージャー、訪問診療医、訪問看護師、訪問介護士などと話し合いを行い、共有することで速やかな在宅医療移行を行います。治療から、退院したあとの生活まで配慮した病床で、再入院することは稀です。

また訪問診療は3年目に突入しておりますが、年々その需要は増えており、院内スタッフも増員しました。限られたスタッフで多くの患者様に対応するべく、昨年の3月からスマートフォンやタブレット端末を利用して、情報共有を始めました。多くの職種で健康状態、投薬内容、訪問看護師の報告など情報共有することで、担当者が不在の場合や対応困難時でも、どのような患者様なのか閲覧が可能となり、従来よりきめの細かい対応が可能となりました。

来年度の事業としてこれらの事業を完成形に近づける展開、再来年度には院内電子カルテなどの設備投資を行うことで、地域から支えられ、地域を支えられる病院作りを目指して精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



たかはし たいが  
病院長 高橋 大賀

